

# 新聞さんの提起=「非同盟のスローガン」について

大谷美芳(2023.01.15)

京都国際大学 第16回 反米・反韓国・反差別共同行動の京都  
変えよう! 日本と世界  
「新しい資本主義」に抗し、軍拡・改憲を阻止する  
大衆運動の構築へ  
2022年10月16日(日) 午後2時~(開場午後1時30分)  
京都・円山野外音楽堂(園内・円山公園内)  
入場無料・雨天決行・集会後デモ(京都市役所前まで)  
講演 変革の原動力であり、その土台となるべき  
大衆運動の課題は何か~  
木戸 衛一 さん  
京都大学大学院教授  
ドイツ語(政治・平和研究専攻)  
PDI 公演・歌 ミニライブ  
「新・社会主義と闘い、反戦・平和を唱え」  
「新しい社会に闘争するに際し、憲法を守り、憲法を守り」(文・日本)  
「改憲・軍拡・改憲を阻止する闘争」  
「改憲・軍拡・改憲を阻止する闘争」  
「改憲・軍拡・改憲を阻止する闘争」  
主催：反米・反韓国・反差別共同行動の京都実行委員会 協賛：PDI(15) (15)

「日米安保に何を対置するか」。「国際関係の中での日本の立ち位置を明確にする」。これは支持です。しかし、「非同盟化のスローガンが重要」は疑問です。

## ①現代は「非同盟」ではなく「反覇権」でしょう 正しい中国論と現代帝国主義論が必要

「不均等発展によって、中国をはじめとする途上国の成長…多極化」。「新興国のプレゼンス…は中国、インド、アセアン諸国などアジアを中心にして今後ますます増大する。」

多極化ではなく、二極化ではないでしょうか。グローバリズムは世界の資本主義化 or 資本主義の世界化ですが、不均等発展が貫徹し、「南」が「周辺」から「新世界」に転化している。資本主義が、国家主導(開発独裁と官僚制国家資本主義)で「内在的」に成長・発展している(「北」の資本輸出=「移植」は発端)。しかし、それだけではありません。

その「新世界」に、中国が後発・勃興の帝国主義として登場した(インドが「次の帝国主義」として続く)。先発(かつ衰退)のアメリカ帝国主義と覇権闘争になっている。

現代は「反覇権」でしょう。アメリカと中国、両方の帝国主義と覇権主義に反対する。「非同盟」は、反米・民族解放と対ソ・自主独立、一時代前ではないでしょうか。

いずれは三極化でしょう。「ウクライナ戦争でも多くはロシアを非難しつつ…経済制裁に参加しない国…も多い。」「反覇権」は、今は弱くても、いずれ強くなるでしょう。

台湾も、韓国とASEANも、アジアとアフリカ・中南米も、全てが覇権の対象となる。中国は、「新世界」を代表して、「旧世界」=「北」の盟主=アメリカと闘争する戦略だが、帝国主義の本性からして、必ず「新世界」に対立し反対される(旧日本帝国主義の道)。

②日本の国際的立ち位置 反覇権のアジアに合流か 覇権主義でアジアと対立か

「日本の将来…を考えると、中国、インド、アセアン諸国との友好関係なしに存続はあり得ない。」「…アジアの一員として存在するしかない。」アジアは、「新世界」全体も、変わる。覇権と反覇権に分化するでしょう。問題はどちらのアジアの一員になるか。

アジアで、「新世界」全体でも、反覇権は強まるでしょう。資本主義の生命力はまだ続く。工業化と成長・発展が進み、プロレタリア階級は増大し階級闘争を強める。民主化闘争になる(韓国・台湾の先例)。少数民族の闘争も強まる。この闘争が、資本主義国家が続くままでも、反覇権を強めるでしょう。中国でも、覇権主義を制動するでしょう。

国の国際的立ち位置の問題は、社会の進路の問題とつながる。日本では、「北」全体でも、資本主義の生命力はもう尽きつつある。停滞、金融化=工業的空洞化、腐朽性・寄生性。プロレタリア階級は大分裂している。それは国民の大分裂。対立は政治化する。長期的根本的には、社会主義がプロレタリア階級を統一し、社会を危機から脱出させる。

反覇権のアジアに合流するには、日本が反覇権でなくてはならない。第1に対中国・帝国主義戦争反対と日米安保体制反対・離脱。第2は韓国・朝鮮に対する侵略と植民地支配の謝罪と賠償

償。第3が沖縄の自己決定権承認と非軍事化。日本人民は、この反覇権を、現在の資本主義国家に要求し、将来の社会主義国家で完全に実行しなければならない。

③なかなかベトナム反戦闘争のようにはいかない 現代の反戦闘争のためには？

「世論が示しているのは『迷い』」。「運動…は盛り上がりを欠いている。」ベトナムは民族解放で、今の中国は帝国主義。親近感と反感、人民大衆の感情は雲泥の差です。

現代の反戦闘争のためには(まして現代の「帝国主義戦争を内乱へ」のためには)、米中覇権闘争を基軸とする、正しい中国論と現代帝国主義論が必要でしょう。(おわり)